

東海道の ゆるはの

まずは

東海道二峠六宿を知ろう



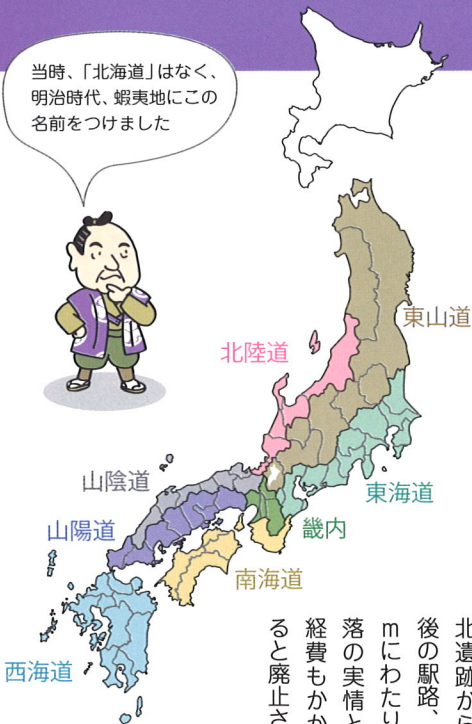
東海道二峠六宿

静岡市内の蒲原宿、由比宿、興津宿、江尻宿、府中宿、丸子宿と薩埵峠、宇津ノ谷峠をつなげて、東海道の道のブランドとして発信し、歩いて、学んで楽しめる仕組みをつくっています。

二峠六宿道旅推進実行委員会

 令和2年度文化芸術振興補助金

当時、「北海道」はなく、明治時代、蝦夷地にこの名前をつけました



この時代、駅路と呼ばれる中央と地方の情報伝達を主とした官道と伝路と呼ばれる人が移動することを主とした官道がありました。駅路は、最短経路を直線的に結び、16 kmごとの駅家で馬を交換し、その馬を乗り継いで移動します。静岡市グランシップの曲金北遺跡からは側溝を備えた幅9 m後の駅路、古代東海道の遺構が350 mにわたり確認されています。地域集落の実情とあっていない直線の道は経費もかかることから平安時代になると廃止されました。



府中宿駿府城公園 徳川家康公像

東海道のいろは

問 東海道といわれたのはいつ頃から？

答 7世紀中頃です。

日本で律令政治が行われ、五畿七道という行政区域ができました。五畿は畿内の大和、山城、摂津、河内、和泉で現在の京都、大阪、奈良付近で、当時は日本の首都がありました。七道は東海道、南海道、西海道、東北道、北陸道、山陰道、山陽道、当時は道ではなく区域の名称でした。

問 律令時代の東海道の範囲は？

答 三重県、愛知県、静岡県、山梨県、神奈川県、東京都、千葉県、茨城県までです。

この時代、駅路と呼ばれる中央と地方の情報伝達を主とした官道と伝路と呼ばれる人が移動することを主とした官道がありました。駅路は、最短経路を直線的に結び、16 kmごとの駅家で馬を交換し、その馬を乗り継いで移動します。静岡市グランシップの曲金北遺跡からは側溝を備えた幅9 m後の駅路、古代東海道の遺構が350 mにわたり確認されています。地域集落の実情とあっていない直線の道は経費もかかることから平安時代になると廃止されました。

問 1607年、街道として東海道を整備した人は？

答 徳川家康公です。

徳川家康公が安定した国家運営をおこなうために整備したものに東海道などの街道があります。当初、東海道は西の脅威に対応するための軍用道路でした。だんだんと時代が平和へと向かい、安全に物資や人が移動できるさまざまな機能が備わった道へと発展し、日本の大動脈となりました。



薩埵峠から海越しの富士山

駿府町奉行の子として生まれ、東海道上で藤栗毛など滑稽本でベストセラー作家となった、元祖道ナビ十辺舎一九は、平成20年度(2008)から東海道二峠六宿の旅案内人を務めてもっています。



東海道宇津ノ谷峠

「東海道」とは誰もが一度は耳にしているでしょう。しかし、そのルートや整備されていた宿場の機能については知らない人が多いと思います。

260年以上、戦争のない時代が続いた江戸時代。

そこには、人々が平和に暮らすシステムが構築されていました。

その重要な役割を担ったのが東海道です。

東海道がどのようなものなのかを学んでいきましょう。

徳川家康公は幼年期、青年期、壮年期、老年期に静岡(駿府)にお住まいになり、さらに、東海道の仕組みを制度化した人です。



由比本陣跡

東海道のいろは



舞阪の松並木



浜名湖今切口には渡し船があった



多くの武将が訪れた宇津ノ谷集落



東海道の面影を残す薩埵峠、間の宿西倉沢



当時の旅人の憧れの京都三条大橋



日本の道路起点「日本国道路元標」がある日本橋



急坂が続く箱根峠



相模と武蔵の国境、権田坂



1601年、関ヶ原の戦いで勝利した家康公は日本統一の家徴として、江戸を起点に全国を結ぶ主要道路の整備に取りかかります。これらの街道は1604年2代目将軍秀忠公により、江戸日本橋が起点とした五街道として定められました。五街道には江戸防衛の要の関所などが設けられました。

問

東海道を含め主要街道を五街道といひます。東海道の他の街道の名前は？

答

中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道です。

問

東海道の関所はどこ？



江戸時代以前の関所は通行税をとっていましたが、江戸時代の関所は通行者の取締りが目的で通行税は取っていませんでした。幕府は諸国の大名の奥方などを人質として江戸に置いていたので江戸から出ていく女性や武器の出入りなどを厳しく監視していました。旅人は関所通行手形を持っており、女性には素性、旅の目的、身体特徴など細かく記載されていました。男性は手形がなくとも審査さえ通れば通行できたようですが、大家や名主など身近な人が発行した手形を持参した人が多かったようです。

問

箱根宿と新居宿は？

答

東海道のいろは



38番目の浜名湖一里塚と松並木

残念ながら、戦時下の伐採、道路の拡幅などでその姿はほとんどなくなりましたが、一部地域では残っています。



成人している男性の旅人が江戸から京都まで約492kmを13日〜15日前後で旅をしたといわれています。これだけの距離を歩くためには日の出とともに宿場を出て8〜10時間は歩いていたと思われる。宿泊する宿場によっては夜間、門を閉める場所もあるので、この宿場に泊まるのかスケジュールを組まなければなりません。そこで人氣があったのが「東海道中膝栗毛」等滑稽本や道中記です。本には各宿場の様子や名物、川越などの料金なども掲載されていたものもありました。

当將軍への忠誠を示すための自発的な儀礼が制度化されたのは1635年です。石高により人数が決められ、千人〜3千人の隊列が移動していました。これだけの人数でありながら、1日の移動距離は一般的な旅人と同じくらいでした。現在のお金で数億円かかる旅行費用を抑えるには日数を少なくする必要があります。担当者は知恵をしばたようです。しかし、全国約260の大名が1年ごとに江戸に向かうこの制度により、街道は整備され、宿場は発展し、江戸には全国の多様な情報や人材が流入し、新しい文化が生まれました。また、地方側も江戸で最先端の知識や文化を学び、地域に伝えるなど日本のなかで交流ができていました。18世紀、ロンドンやパリの識字率が10〜20%のなか、江戸は70%を超えていたといわれるのもこれが一因かもしれません。

問 東海道の道幅はどのくらい？
答 2間(約3・6m)〜6間(約10・8m)です。

問 当時の成人男性が1日で歩く距離は？
答 8里(約32km)〜10里(約40km)です。

問 参勤交代の隊列の1日の移動距離は？
答 8里(約32km)〜10里(約40km)です。

公家や宮様がいる京都は江戸の庶民に人氣が高かったのです



東海道が1601年に整備された時、宿場は約40程度だったといわれています。旅人は宿場以外での休憩や宿泊はできないことになっていたので、長い距離や難所などに新しく宿場をもうけていきました。また、家康公にとって西の恐怖、豊臣家を打ち取ったことで1619年に大阪まで街道が整い、大阪まで57の宿場となりました。京都までは約492km、大阪までは約542kmでした。

問 東海道の宿場は日本橋から京都までは53宿、大阪まではいくつ？
答 57宿です。

問 東海道には峠はいくつあるの？
答 5つの峠があります。



薩埵峠

峠とは、山の一番高い所から下りになる地点のこと。東海道は海沿いを通るので山越えが少ない街道ですが、特徴的な峠が5つあります。標高が846mと高く、急峻で旅人が苦労した箱根峠、波をかぶるようで「親不知子不知らず」といわれた薩埵峠、伊勢物語に登場し、歌人に人氣のある宇津ノ谷峠、夜泣き石の伝説が残る小夜の中山峠、古代からのルートで天候の変化が激しい鈴鹿峠があります。



歌川広重 府中宿

東海道は川が多い街道です。そのなかで江戸防衛のため橋が架けられていない川は船で渡ることになっていました。その船渡しが許されなかったのがこの5つの川です。川を渡るには人が運ぶ徒歩渡し、馬渡し、蓮台渡しなどがありました。冬は仮橋を架けることが許されましたが、安倍川と大井川はそれすらも許されませんでした。

問 橋を架けることが許されなかった山は？
答 酒匂山、興津山、安倍山、瀬戸山、大井山です。

東海道のいろは



由比本陣公園

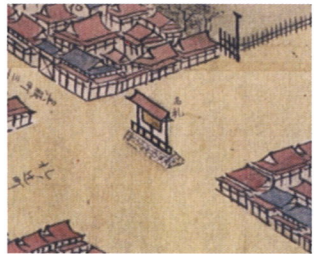
ただですが、その経営は厳しく、廃業する所までいます。脇本陣は本陣のスペアとなる施設で、平素は一般旅人などが宿泊できました。

身分制度があった江戸時代、天皇が派遣する勅使、公家、大名などと一般の旅人が同じ場所に宿泊することは許されませんでした。特に、参勤交代の制度が始まると、身分の高い人の休憩や宿泊場所が必要となってきました。幕府は地域の名主などに伝馬朱印状で物流の権利を渡し、苗字帯刀を許可し、その代わりに本陣を構えさせ、無料で宿泊ができる仕組みをつくりました。参勤交代では料理人や食材は持ち込むので、本陣では宿泊



新居

江戸時代には宿場以外での宿泊は認められていないので、一般の旅人は宿場にたどりついて宿をとりました。それが旅籠です。幕府は旅籠の規模を大・中・小と分けていましたが、どれも夕食と朝食が付いており、夕食は一汁三菜が基本でした。混んでいる時は相部屋になることもあったようです。木賃宿は食事が付かない宿です。宿泊客は米や鍋を持参し、自分で調理していました。部屋も大部屋に雑魚寝で、男女の区別もなく、また、衛生的にも問題がある所が多かったようです。



府中宿の高札場

高札場は幕府からの重要な事項を住民や旅人にお知らせする掲示施設の事です。重要なことを掲載するため、東海道の面して、道が交差するなど宿場のなかで目立つ場所に建てられていました。施設の高さは1丈(3m)以上、間口は2〜3間(3.6m〜5.4m)程度あり、そこに30〜40cmの高札を張り付けられていました。その内容は幕府からの法令発布、禁止事項、宿場の荷物継立の料金、親子、夫婦の忠孝の奨励、住民の生活の規範など多岐にわたっていました。

問 身分の高い人が泊まる場所は？

答 本陣・脇本陣です。

問 一般の旅人が泊まる場所は？

答 旅籠と木賃宿です。

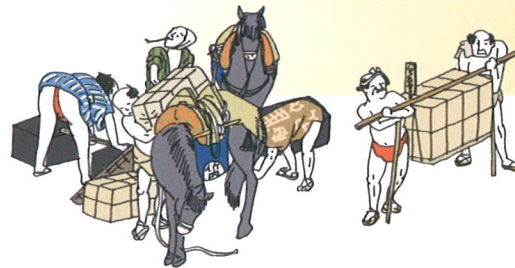
問 幕府からの法令などを知らせる掲示場所は？

答 高札場です。

問 物資や情報の輸送に適した宿場の制度はなに？

答 宿駅伝馬制です。

出発地から目的地まで同じ人が運ぶのではなく、宿場ごとに人馬を変えて駅伝のリレーのように運ぶ制度です。7世紀の律令時代からある方法です。五街道では、東海道が1000人の人足と100匹の馬、中山道が50人、50匹、その他の街道が25人、25匹の用意を幕府は各宿場に義務付けました。宿場には免税、宿泊や荷物郵送料などで収入を得られる特典があり、宿場ごと運営していました。この用意ができなかった宿場には周辺の村が運営に加わる加宿や、人馬が足りない時のみ周辺の村から借りる助郷などの制度ができていました。江戸時代は地方分権が進んでいたのです。



宿場の重要な役割は隣の宿場から運ばれてきた荷物や通信物を次の宿場に運ぶことでした。それを取り仕切っていたのが問屋場です。家康公が東海道を整備した当初は人足36人、馬36匹で幕府の情報や荷物のみを取り扱っていました。1635年、参勤交代が制度化されると人足100人、馬100匹となり、幕府以外の物も取り扱えるようになりました。この荷物を運ぶ馬のことを「伝馬」といい今も地名に残っています。

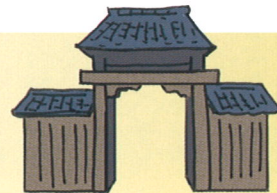
問 宿場で一番重要な施設「問屋場」の読み方は？

答 「どいやば」です。

問 宿場の出入り口をなん言う？

答 見付け、本戸、棒鼻などいいます。

宿場の範囲は明確に示されており、宿場によっては門があり、開け閉めする管理者がいた所もありました。見張り番がいたので「見付」開け閉めする門があったので「本戸」宿場や町の境界に傍示杭という境界を標示する人の背丈よりも高い柱が立っていたので「棒鼻」などと呼んでいた地域もありました。経済的に大きな負担を強いられていた参勤交代の隊列は、移動速度を弱め、宿場の入口で威風堂々とみえるよう、隊列を整え入ってきたといわれています。また、石高により隊列の人数が決められてはいましたが、経費節減のため、事前に地元の村からバイトを雇い、隊列に参加させ、それなりに見せていたこともあったようです。



東海道のいろは

問 郵便や為替などを運んだ職業はなに？

答 飛脚です。
ひやくかく



宿場の重要な役割は①人馬の継立、②旅人の宿泊、③通信業務です。その③通信業務を担当していたのが飛脚です。各宿場に配置され、旅人が2週間程度かかった江戸から京都までの約492kmをわずか3〜4日で走ったそうです。また、紀州徳川家など有力大名は、幕府の動向をいち早く入手するため、直属の通信機関「お七里役所」を整備していました。紀州徳川家は江戸から和歌山まで約584kmを8日、特急便は4日で行き来し、飛脚達も龍模様半纏に刀と十手を腰に差し、東海道を走っていたそうです。

問 運ぶ荷物の料金を決めてゐる役所は？

答 買目改所です。
かめめ あらためしよ



買目改所は荷物の重量を図り運賃を決める重要な役所です。東海道では品川宿、府中宿と中山道と合流する草津宿に置かれていました。この役所ができる前は馬や人が運ぶ重量は定められていましたが、大名などの権威者が規定よりも多くの荷物を運ばせて宿場の人足や馬を苦しめていました。江戸中期には正規の馬は40貫(150kg)、人を乗せる用の馬、軽尻は20貫(75kg)、人は5貫(18・75kg)と基準がありました。

問 宿場以外で休める場所は？

答 立場、間の宿です。
たちば あい ぐま



休憩、宿泊は基本的には宿場でしか認められませんが、峠のような難所、宿場間の距離が長い所など旅人の負担が大きい所には立場が作られ休憩ができるようになっていました。ここには茶屋や売店などがあり、茶屋ではお茶や団子などをたべず、座ってお水を飲むだけなら無料で利用でき、今の時代の道の駅のようでした。立場が発展し、規模が大きくなり、幕府が公認したものも間の宿とよんでいます。ただし間の宿でも宿泊は許されませんでした。

当時のほとんどの旅人は

草鞋を履いて旅をしていました。

草鞋は稲藁で作られ、

草鞋前部の長い「緒」が側面の「乳」の輪をくぐり、

足首に巻き縛るようになっており、

足にフィットする日本独自の履物です。

旅人は40km程度歩くと履き替えていたように消耗品でした。

擦り切れた草鞋を

沿道のお地藏様の前に置いておくと、

旅費の持合せが少ない旅人が

それを修理して使っていたそうです。

また完全に使い切った草鞋は馬が食べて、

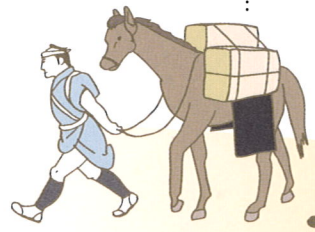
東海道の馬の糞は

農民が競って集めて

田んぼの肥やしにしていたとか…

東海道を往来したシーボルトは

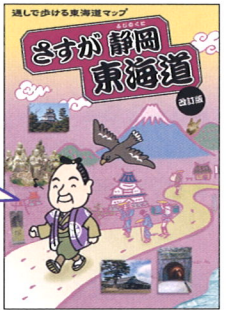
東海道をすこくきれいな道と絶賛していたようです。



東海道はJRの敷設、国道1号、高速道路などにより分断され、非常にわかりにくいルートとなっています。歩いている人が迷わず、楽しく歩けるよう、静岡市内19か所、藤枝市内3か所の道路路面に標示シートを整備しました。また、東海道沿道の住宅や事業者に協力をお願いし、約140箇所に東海道マークのシールを貼付しています。



静岡県内の東海道を
通して歩ける東海道マップ
『さすが静岡東海道』



静岡市内の東海道や
宿場を歩くならば、
『駿河歩人パスポート』